

インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 試験方法 編 － (その18)

Vol.89

1. 小型 FWD による IL ブロック舗装の荷重分散性能の測定方法 (JIPEA-TM-12)

(1) 試験方法

- (2) 図 1 に示すように、まず任意の IL ブロックの中心部に小型 FWD の載荷板の中心部を設置し、増設センサ(以第 2 センサという)を載荷側 IL ブロック内の目地近傍に設置してたわみを測定します。
- (3) 次に、第 2 センサだけを目地に挟んで隣接する非載荷側 IL ブロックの目地近傍に設置してたわみを測定します。

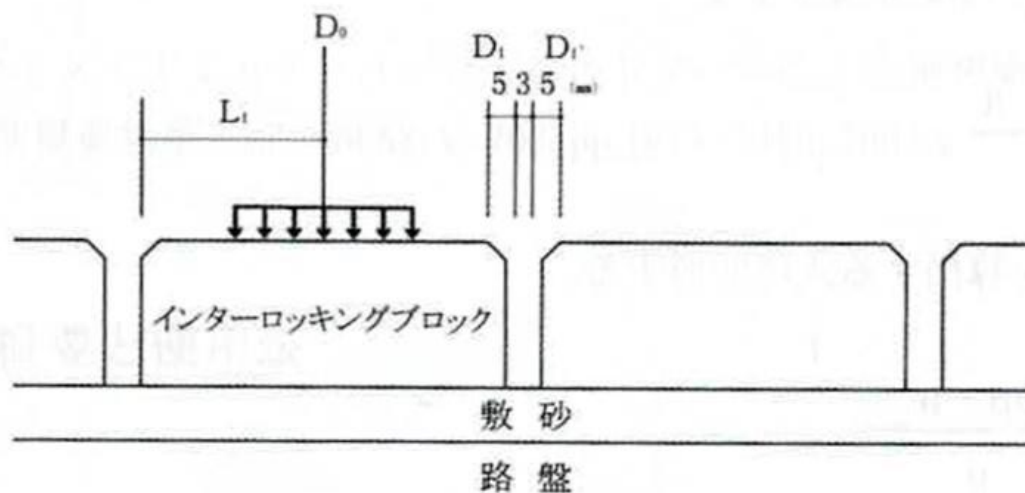


図1 小型 FWD による荷重分散性能の測定方法

(2) 結果の整理

- ① かみ合わせ効果は、次式を用いて載荷側 IL ブロックの目地近傍のたわみ量 (D_1) と目地を挟んだ状態におけるたわみ量 (D_1') の比で評価します。
- ② その比が 1.0 に近い程、目地を挟んだ 2 つの IL ブロックのたわみが近似しており、か

み合わせ効果(荷重伝達率)が高いといえます。一方、0に近い程、載荷側のILブロックのみに負担がかかっていることとなります。

- ③ ILブロックの形状や寸法に応じて荷重伝達率を(1)式により算出します。

$$\text{荷重伝達率}(Elt) = Di' / Di \dots\dots\dots (1)$$

ここに、 Di : 載荷側ILブロックの目地近傍のたわみ量(mm)

Di' : 非載荷側ILブロックの目地近傍のたわみ量(mm)

Do : 載荷板直下のたわみ量(mm)

(3) 注意事項

この方法で荷重伝達率を測定する場合、1つのILブロック上に載荷板と第2センサを設置するため、ILブロック一辺の最小寸法で140mm以上が必要となります。

以上